

## 主題：ヨベル

メッセージ 11

ヨベルとしてのキリストを経験し享受することに関する使徒パウロの証し

聖書：ピリピ 1:19, 21 前半. 2:5, 17. 3:1, 10, 13-15. 4:4-5, 11-13, 23

- I. パウロはヨベルの生活をしたので、歓喜の生活をし、それゆえにわたしたちを励まして、主の中でいつも喜んでいるようにと励ますことができました。主の中で喜ぶことは、安全、保証です——ピリピ 1:18. 2:17-18. 3:1. 4:4。
- II. ヨベルとしてのキリストを経験し享受しようとするなら、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給を絶えず受ける必要があります。それは、主の復活の後の神の霊、神性を伴う聖霊であり、主の肉体と成ること（人性）、十字架の下での人の生活、十字架刑、復活と複合されています—— 1:19。
- III. パウロはキリストの内なる各部分の中で、絶えずキリストを経験し享受した人でした。彼はキリストの各部分の中で、すなわちキリストの愛情、優しいあわれみ、同情の中でキリストと一でした。そして彼の内なる部分は、キリストの各部分で再構成されました—— 8 節。
- IV. パウロの生活はキリストを生きることでした。キリストは彼の命であるだけでなく、彼の生活でもありました。彼とキリストは共に一人のパーソンを生きました—— 21 節前半。
- V. パウロはヨベルの生活をする中で、絶え間のない救い、実行上の、日ごと、瞬間ごとの救いを経験しました。模範としてのキリストがわたしたちの内なる命となる時、その模範はわたしたちの救いとなります—— 19 節. 2:12。
- VI. キリスト・イエスの中にあった思いは、パウロの中にもありました。ですから、彼は「この思い」、キリストを追い求めて獲得する思いを持っていました—— 5 節. 3:15。
- VII. パウロは肉に信頼せず、すべての事柄を損失と勘定し、後ろにあるものを忘れ、前にあるもの（彼がキリストを経験し享受したすべて）に向かって体を伸ばしていました—— 7-8, 12-14 節。
- VIII. パウロがヨベルとしてのキリストを経験し享受することができたのは、経験的に、キリストの復活の力を知っていたからです。それはキリストの復活の命であり、それは彼を死人の中から復活させ、その実際はその霊です—— 10 節。
- IX. わたしたちはパウロから、ヨベルの経験と享受を妨げる消極的な事柄に注意することを、学ぶ必要があります。それは競争心、つぶやきと議論、自分自身の事柄を求めること、邪悪な働き人、肉に信頼すること、思い煩い、欲求です—— 1:17. 2:14, 21. 3:2, 4-8. 4:6, 11。
- X. わたしたちは霊的生活の中で到達した程度が何であっても、パウロが同じ規範によって、同じ道を歩いたように、歩かなければなりません。すなわち、わたしたちは目標に向かってキリストを追い求め、最も完全な程度にまでキリストを得なければなりません—— 3:15-16。

- XI. パウロのように、ヨベルとしてのキリストを経験し享受しようとするなら、わたしたちの物質の必要を顧み、過度の物質の享受にふけないようにすべきです—— 17-19 節。
- XII. ヨベルの中で生き、ヨベルとしてのキリストを経験し享受した者として、パウロは謙虚溫柔に満ちた生活をしました—— 4:5。
- XIII. パウロのように、わたしたちは祈りの中で神との交わりを実行し、わたしたちの要求を彼に知らせ、わたしたちの心と思考をキリスト・イエスの中で護衛する神の平安を享受する必要があります—— 6-7 節。
- XIV. ヨベルとしてのキリストを経験し享受することの中で前進するために、わたしたちは使徒パウロの中で学び、受け、聞き、見た事柄を実行すべきです—— 9 節。
- XV. ヨベルとしてのキリストを経験し享受した者として、パウロはすべての環境の中で満ち足りる秘訣を学びました—— 10-12 節。
- XVI. わたしたちはヨベルとしてのキリストを経験し享受するとき、わたしたちを力づけ、内側でダイナミックにする方の中で、いっさいの事柄を行なうことができることを認識します—— 13 節。
- XVII. ヨベルとしてのキリストを経験し享受するとは、わたしたちの霊と共にいる主イエス・キリストの恵みによって生きることです。この恵みは、わたしたちの供給と享受としてのキリストにある神です—— 23 節. 1:2, 7。
- XVIII. わたしたちはヨベルとしてのキリストを経験し享受しようとするなら、すべてを含む命を与える霊と、わたしたちの再生された霊との結合とミングリングの中に生きなければなりません—— 19 節. 4:23。
- XIX. ヨベルの完全な経験と享受は、個人的な事柄ではなくからだの事柄です。ですから、ヨベルのために、わたしたちはからだの中で、からだによって、からだを通して、からだのために生き、常にからだのために最上のことを行なう必要があります—— 1:19, 22-26. 2:1-2。
- XX. ヨベルとしてのキリストの経験と享受の絶頂は、注ぎのささげ物となって、聖徒たちの信仰のいけにえと奉仕の上に注ぎ出されることです。ぶどうの木で予表される、いけにえとなるキリストと接触し、いけにえとなる命を経験するなら、彼はわたしたちを活気づけて、いけにえとなる命を生きさせ、ぶどう酒を生み出して人と主を幸いにします。ぶどうを生み出すぶどうの木としてのキリストを経験することによって、また新しいぶどう酒としての彼で満たされることによって、わたしたちは彼の中で、また彼をもって注ぎのささげ物となり、聖徒たちの信仰のいけにえと奉仕の上に注ぎ出されます—— 17 節。